

自衛艦隊司令官講話等シリーズ（その6）

【マネジメント】（15. 3. 31）

リーダーの資質として、現代は高感度・高安定・高淡泊が要求され、その要件は長期的に先見性及び短期的に指導性である。

リーダーシップとは、万事を牛耳る指揮官が最善観をもって美点を凝視して部下に自信を注入することに他ならない。

その自信は、指揮官との心の通い合い（コミュニケーション）によって組織の積極的納得者となった部下が“個人として認められている”という自覚を促し、部下として誇りある自制をもたらすことにもなる。

（開発官付言；「帰属欲求」と「成長欲求」の話に通じる。）

また、リーダーシップとは「重要事項は何なのかを決めること」であり、マネジメントは「重要事項から優先して実行すること」である。

そして、管理とは、合成誤謬（ごびゅう）を押し機会損失の減少を図ることをいう。

部隊運営に係る指揮官・幕僚は、業務管理・安全管理・警備管理・秘密管理・金物管理・応響管理・健康管理を的確に行ってこそ、事において後悔せず、「天空海闊（てんくうかいかつ）」に仕事出来るのである。

戦争とは、位置（Position）と時間（Time）との事業（Business）である。

勝利のためにそれらの処理を如何に効率的に行うかが要求され、マネジメントの出来不出来によっても作戦の成否が左右される。

（以下、各管理について細部の指導が行われているが、その一端は既に先の「勤務参考」（9. 12及び9. 16配信分）において要諦を紹介したのでここでは割愛することとし、未紹介部分で教訓となる部分を抜粋紹介することとする。）

〈副官業務要領精髓（せいずい）〉

参謀と副官を総称して幕僚という。参謀は、高級指揮官の作戦・用兵などの計画に参加し補佐する。

副官は、司令官・幕僚長など高級指揮官等に直属してその事務を担当する。

副官または副官に準ずる暫定配置に就いてその任務を全うするため、副官業務要領の精髓を示すので、初級幹部は参考とされたい。

① 吾がボスをして「誤った言動を執らせない」

「恥を搔かせない」

「体調不良にさせない」

ことが何よりである。

- ② そのためには、行事・会議・報告・来訪・会合などの
・趣旨 ・背景 ・日時 ・場所 ・服装 ・持参品 ・参加者
・移動計画 ・連絡手段 ・参考事項
を調査・探求する。
- ③ そして、この計画を吾がボスの眼で頭上シミュレーションして、目的の適合性、手段の可能性、リスクの受容性及び計画前後の整合性を確認する。

〈経国大業・不朽盛時〉・・・牧本文章五原則

中国の魏（220～265）の初代皇帝の文帝はその撰『典論』の中で「文章は経国の大業、不朽の盛時なり」と述べている。これは「文章は、国を治めるための重大な事業であり、永久に朽ちることのない盛大な仕事である」という意味である。

そこで、文帝の見識に賛同する私も、文章五原則について述べるので、よろしく研鑽・実践されたい。

- 一 正しい用語は当然として、また、誤字・脱字・ちょんぼ数字・ぽか表現・事実誤認は論外として、我が思いを精確に表現できる言葉は一つしかない。
(参照；類語国語辞典)
- 二 一つ概念を表現するのに、一つ用語に統一しなければならない。
(複数の用語を使用すると、読み手を考えさせ混乱させるだけである。)
- 三 専門用語・略語・外来語・外国語を安易に使用しない。
- 四 読み手の疑問にその箇所で答えるなど、読み手に考えさせない親切な編集構成（注や括弧）とする。
- 五 読み手にとっては、観て美しく、視覚的に理解できた気持ちになり、読みやすいようなレイアウトとするため、記号（読点など）、符号（括弧など）及び文字等配置に工夫を凝らす。

「兄弟仁義」という唄に「じっと眼を見る、何にも言うな」との一節がある。しかし兄弟または義兄弟でないと、これでは意思疎通ができない。やはり、通常は人間同士の意思疎通に言葉が必要なのである。即ち、言葉（文章）の過誤は、意思疎通を阻害し、人間の社会活動を困難にするので、文章五原則など厳しく指導していく。そもそも最高司令部に誤謬があつては、その権威が部内外に保てないゾ！（開発官付言；同意！）

つづく